

教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和 2年 3月 24日

グループ名	国語教育科学研究会	フリガナ 代表者氏名	シノハラアツコ 篠原敦子
学校名 (代表者)	港区立御田小学校 (油史枝)	電話番号	03-3451-3997
研究テーマ	「情報の読解と創造」～「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る国語科学習		
研究期間	平成31年4月1日 から 令和2年3月31日 まで		
研究結果 の概要	<p>(1)研究主題 「情報の読解と創造」～「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る国語科学習～</p> <p>(2)研究主題について 人間性の伸長と開発を目指すために、言語の機能に着目した学習指導を行い、言葉の力を伸ばし、思考力、想像力、伝達力を豊かにし、知性、感性、社会性という人間性を育てるという考えをもって研究した。</p> <p>新学習指導要領の「指導計画の作成に当たって」に、「主体的・対話的で深い学びの実現を図る」とある。また、「知識及び技能は、思考力、判断力、表現力等に示す指導を通して指導する」とある。この考えで授業研究を展開した。情報にかかわる学習について、情報事項・情報構造・情報意図の認識という視点で情報の受容と発信について研究し、研究主題「情報の読解と創造」を深め整理し具体的、発展的に研究を進めた。</p> <p>研究実践に当たっては、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの学習過程を重視して、主体的・対話的で深い学びの実現を図る国語科学習を追究した。</p> <p>(3)研究内容 以下、実践を基に、研究の成果と課題の要点を整理したい。</p> <p>○新指導要領の指導事項は学習過程に沿って提示されているので、その過程に沿って、指導事項を洗い出し、評価基準も決めること。</p> <p>○情報にかかわる指導事項についてその内容を整理すること。</p> <p>○情報を伝達する時は、情報意図、情報の概要、情報事実とその説明という構成が分かりやすいこと。</p> <p>○情報を正確に受容し、正確に発信するという学習は、情報の意図、情報の構造、情報事項、情報の表現の仕方に留意して学習計画を立てること。</p> <p>○情報の構造は、情報事項相互の関係（話題と説明、総括と個、具体と抽象、原因と結果、根拠と意見など）に注意しながら学習すること。</p> <p>○文章構成を作らせたり、読み取りマップを作ったりして構成的思考力を伸ばすこと。</p> <p>○見える化し考えを形成し易くする。考えたことは何らかの形で表現し、マイ黒板機能などを使いタブレットに示しグループや全体で伝え合うこと。</p> <p>○さらに考えを深めるには、思考と思考の絡み合いができるように、課題解決の方法に沿うようにすること。</p> <p>○自分の授業をS-T表に書き表すなどして授業分析を行い、実践を振り返り考察すること。</p>		
特記事項	第12回国語教室は、令和2年2月8日港区立御田小学校において開催され、会員のみならず、多数のご参加をいただき活発に意見交換できた。ここに本年の研究が集約されている。国語教育科学研究会のHPをご覧ください。		

<研究主題> 「情報の読解と創造」～主体的・対話的で深い学びの実現を図る国語科学習～

<1 単元のシステム>

○研究授業に当たっては、最初に単元のシステムを確実に作ることが大事である。「単元のシステム」とは、次の事項を組織し単元を概観することである。

- ① 単元の学習目標（価値目標・行動目標）
- ② 学習内容（◎主体的に学習に取り組む態度 ○思考力・判断力・表現力 △知識・技能）
- ③ 学習資料（教科書、自作教材、学習シート）
- ④ 学習方法（単元の学習活動を順に）
- ⑤ 学習評価（評価の観点または評価の基準）

○単元のシステムの例。「たからものをしようかいしよう」（東書二年上）をとりあげてまとめた、音声言語の学習指導の単元のシステムである。

学習目標	学習内容	資料	学習方法	学習評価
自分が紹介するものについて、相手に伝えるために必要な情報を考え、情報を収集・整理し、話す順序を考え、大事な情報を落とさずに話したり聞いたりすることができる。	<p>◎言葉を大切にしていや考えを伝えようとすること。</p> <p>○身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な情報を選ぶこと。</p> <p>○相手に伝わるように、話す情報の順序を考えること。</p> <p>○伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>○話し手が知らせたい情報や自分の聞きたい情報を落とさないように集中して聞き話の内容を捉えること。</p> <p>○互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p> <p>△姿勢や口形、発声や発音に気を付けて話すこと。</p>	教科書 自作教材「わたしのたからもの」 学習シート	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校、家庭などから自分が紹介するものについて話題を決める。 2 事柄を具体的に思い出し、必要な情報を選ぶ。 3 聞き手を意識して、聞き手に伝わるかどうか、情報を整理して、話す構成を考える。 4 二人組などでスピーチの練習をして、話し方や話す事柄についてお互いに助言しあう。 5 紹介する活動を通じて、話し手が知らせたいことは何か考え話の内容を把握したり、話を聞いて、自分が興味、関心を持ったことについて伝えたりする。 6 発表したり聞いたりする活動を通して、感じたことや分かったことを共有する。 	<p>◇クラスの友達に紹介するということに関心をもっている。</p> <p>◇紹介するものを決めて、観点にそって、紹介する情報を考えている。</p> <p>◇紹介する内容について、聞き手を意識して、話す情報の順序を考え、話している。</p> <p>◇声の大きさや早さに注意しながら話している。</p> <p>◇話の大事な情報を落とさずに話したり聞いたりしている</p> <p>◇話したり、聞いたりした感想を、自分の経験と結びつけて伝え合っている。</p> <p>◇姿勢や口形、発声や発音に気を付けて話している。</p>

<2 学習方法の設定>

○新指導要領の指導事項は学習過程に沿って提示されている。学習過程に沿って順に指導事項を設定し、学習方法とそれに対する評価基準を決める。以下は、「食べ物のひみつを教えます」の

学習方法である。課題・題材、情報収集、構成、記述、推敲（修正）、共有（交流）の学習過程をふんでいる。

1. 姿を変える食材への関心を高め、友達に伝えようという意欲を高め、学習課題を決める。

『すがたをかえる大豆』の学習を生かして、姿を変える食材について調べ、友達に伝えるように説明の仕方を工夫して文章を書き、互いに調べたことを伝え合おう」と、文章を書く目的を決める。

2. 図書資料を使ったり、経験を想起したりして伝えたい食材を決める。
3. 関連する情報を収集する。
4. 調べた内容を情報事項ごとに、中心（要点）とその例を段落カードに整理し、伝えたいことを明確にする。
5. 段落カードを組み立て、文章のアウトラインをつくる。
6. 前時に組み立てた文章のアウトラインに従って書く。
7. 文章を書く目的に照らして書いた文章を読み直し、修正する。
8. 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。

<3 主体的・対話的で深い学びの視点>

○「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにどのような視点を持つべきか。次の表は、書くことの学習指導に当たって作成したものである。

主体的視点	対話的視点	深い学び
<学習過程を理解する> ○課題意識—収集・整理—構成—記述・推敲—活用 <課題意識をもつ過程> ○生き物の特徴を調べて比べ知らせようと課題状況をつかみ、自ら学習課題を立てる <収集・整理・構成過程> ○分かりやすく書くために、生き物の情報話題に即して情報事実を収集し整理する <記述・推敲過程> ○どのように学習課題を解決したらよいか、学習方法を考える ○自己学習して課題について考えをもつ。	<構成過程> ○目的を明確にして、ペア、グループ、全体で共同学習をする <記述・推敲過程> ○目的を明確にして、ペア、グループ、全体で共同学習をする ○話し合ったことを基に、評価基準を作り共有する。 ・情報事実を正確に書く ・図と文章を対応させて書く ・事実と考えを書き分ける ・考えをはっきりと書く	<記述・推敲過程> ○情報事実を関連つけ自分の考えを整理して書く。 ・複数の情報事実を比べている ・情報事実を比べて自分の考えを立てている <共有過程> ○評価基準を理解する ○評価基準に沿って学習課題を解決できたか自己評価する ○自己評価の結果を基に調節学習または深化学習をする ○解決できなかったときは、どこが足りなかったのか学習をし直す ○達成した時は深化学習をする ○学習の過程を振り返る。 ○学んだこと（学習方法や内容）を想起し、学習方法を身に付ける

<4 情報にかかわる指導事項>

○情報を伝達する時は、情報意図、情報の概要、情報事実とその説明という構成が分かりやすい。また、情報を読解するときは、情報意図、情報の概要、情報事実とその説明という視点で読み取っていく。

○情報の指導の中で一つのポイントは、「情報と情報の関係」である。例えば「小学校第3学年は要点学年」と言われる。要点と細部の関係、段落の構成、文章の構成の指導が重要な学年である。構成の学習と、「情報と情報の関係」の学習がリンクしている。情報の構造は、情報事項相互の関係に留意して学習する。例えば、話題と例と説明（「生き物の特徴」）、総括と個（「こまを楽しむ」）、具体と抽象（「すがたを変える大豆」の要点とその例）、原因と結果（「アリの行列」）、根拠と意見（「自然に学ぶくらし」）などの関係である。

<5 情報の構造を読み取る>

○「こまを楽しむ」の分析的な読みの中で次のように目標・方法・評価を設定して、情報を要点と細部という組み立てで情報を構造的に読み取っている。

① 学習目標

「鳴りごま」の段落を分析的に読み、次のように書いたり話したりすることができる。

要点…鳴りごまは、回っているときの音を楽しむ

つくり…こまのどうは大きく、中がくうどうになっていて、よこに、細長いあなが空いている

回し方…ひもを引っぱって回す。ポーッという音が鳴る。

② 学習方法

1 鳴りごまの段落の要点を詳しく読む。

課題

「鳴りごま」が、音を楽しむことができるのは、なぜでしょう。

2 学習方法を確認し、観点に沿って、まとめる。

3 まとめたことを基に、根拠を明らかにしながら話し合っって考えを広げる。

4 共同学習により、評価の観点を明らかにして評価・調節をする。

5 学習を振り返る。

③ 学習評価

◇鳴りごまで音を楽しめる理由について読み取ることができたか。

(評価方法：学習シートによる自己評価)

<6 診断的な評価の活用>

○次の資料は、上記の学習を前提とした診断的な評価の一部である。このような診断的な評価に基づいて児童の実態に合った学習方法を設定する。

<学習する能力についての診断的な評価>

説明的な文章の読みの実態を把握するため、「しぜんのかくし絵」(東京書籍・3年上)の一部を抜粋した文章を用いて診断的な評価を行ったところ、次のような結果となった。

・文章に出てくる昆虫の名前を正確に書き出すことができた……○○%

・細部に当たる、昆虫の色を正確に書き出すことができた……○○%

・文章が何を説明しているか理解できている

保護色に気付いた人……○%

色のことが書かれていることに気付いた人…○%

虫の説明と捉えた人……○%

この結果から、文章の細部を読むことはできても、文章の要点と細部を結び付けて読んだり、中心的な事項を押さえたりする力は、十分身に付いているとは言えない。

○このような診断的な評価を生かして、学習方法を何段階か設定する。実際は、学習シートが児童の実態に合うように何段階か作成し、自己学習を保障する。

<7 情報の正確な受容と正確な発信の学習を通して、思考力と学びに向かう力を培う>

○情報を正確に受容し、正確に発信するという学習は、情報の意図、情報の構造、情報事項、情報の表現の仕方に留意して学習するが、情報の取り扱いを学ぶだけではない。人間性の伸長が学習の基盤にある。段落カードで文章を組み立てたり、読み取りマップを作ったり、操作的な活動を通して、構成的思考力を伸ばし、学びに向かう力を培う。以下は、単元の学習目標の例である。

単元名 「発見！すがたをかえる○○ ～例をあげて説明しよう～」

教材名 「食べ物のひみつを教えます」(光村図書3年下)

学習目標

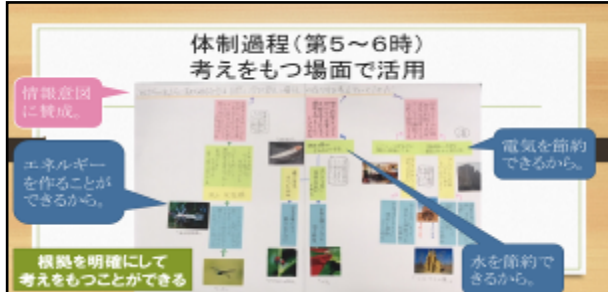
段落相互の関係を考えて事例を挙げて説明する文章を書き、姿を変える食材についての、情報を整理して分かりやすく伝えたりすることへの興味や関心を高めることができる。

このように、単元の学習目標は、主体的に学習に取り組む態度、思考力・判断力・表現力、知識・技能を一体として設定し、授業者が単元の目標を明確に意識するように書きたい。

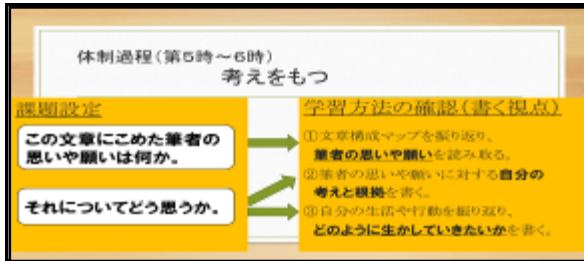
<8 考えの形成>

○情報社会の中で、「考えの形成」する力を培うという視点は、非常に重要である。そのために読み取った情報を「見える化」するとよい。

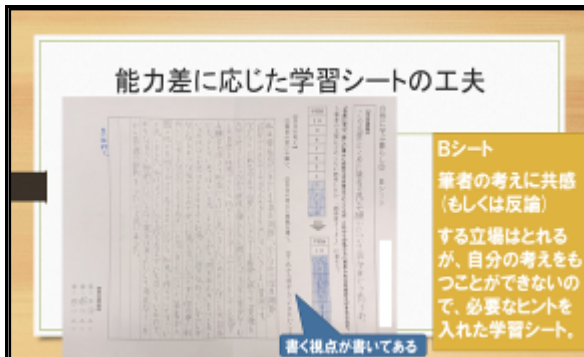
○「自然に学ぶ暮らし」(光村図書6年)の授業の中で作成した文章構成マップである。



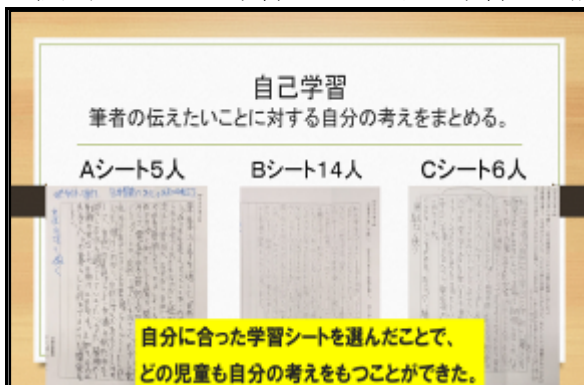
○児童が考えを持つための手順を示したもの。学習方法を意識させて、学び方を学ばせたい。



○先生が作成した学習シート。3ランクあるがその一部。




○個人差に応じた学習シートで自己学習した結果。



○自己学習した結果を基にグループで話し合う手順を示したもの。

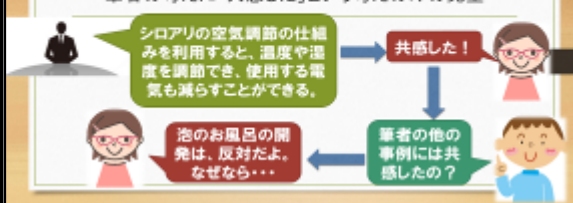
体制過程(第6時)
考えの異なる児童同士のグループ学習

- ①グループの友達の自己学習結果をコピーしたシートを各個人がもつ。
- ②グループで自分の考えを一人ずつ発表する。
- ③グループで出された考えを似ている考えと違う考えに分けて線を引く。
 (共通点→赤線 相違点→青線)



○グループで話し合った結果を基に、学級全体で話し合う。

全体での話し合い
 ～筆者の考えに「共感した」という考えのみの児童～



シロアリの空気調節の仕組みを利用すると、温度や湿度を調節でき、使用する電気も減らすことができる。

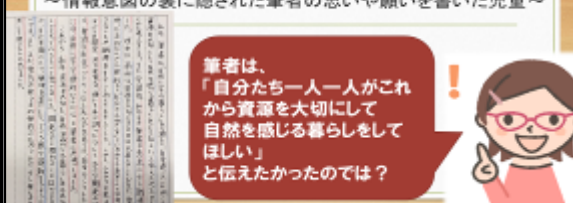
共感した!

筆者のお風呂の開発は、反対だよ。なぜなら...

筆者の他の事例には共感したの?

○違う考えの児童の学習の様子を見て話し合う。

全体での話し合い
 ～情報意図の裏に隠された筆者の思いや願いを書いた児童～



筆者は、「自分たち一人一人がこれから資源を大切に自然を感じる暮らしをしてほしい」と伝えたかったのでは?

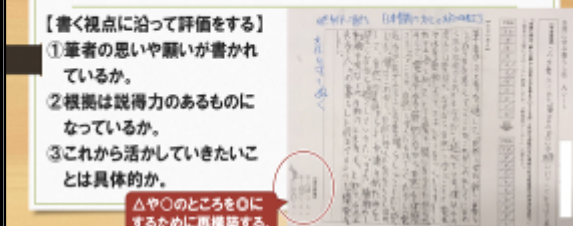
○自己評価をどのようにするか。評価の観点を示し、よく理解させ、評価させる。

評価・調節
 ～自分の考えを再構築する～

【書く視点に沿って評価をする】

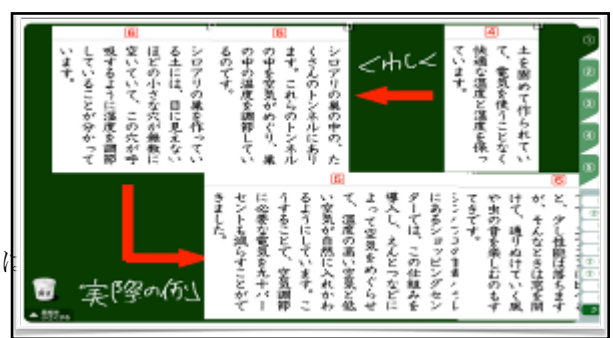
- ①筆者の思いや願いが書かれているか。
- ②根拠は説得力のあるものになっているか。
- ③これから活かしていきたいことは具体的か。

△や○のところに○にするために再構築する。



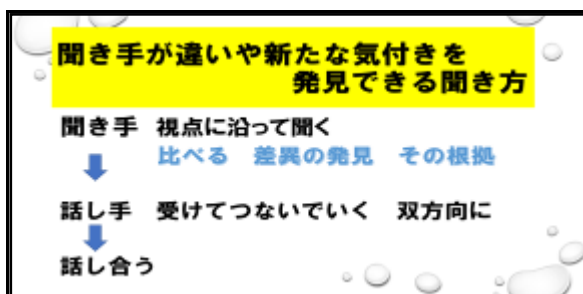
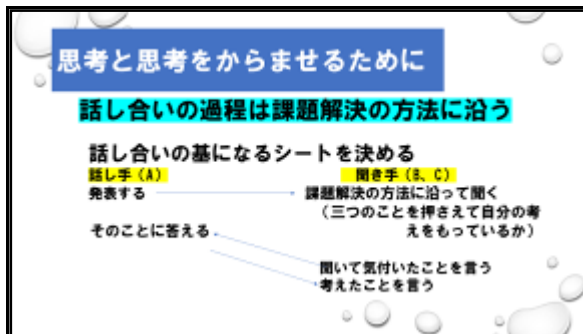
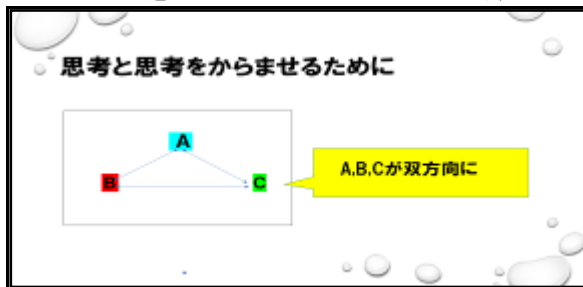
<9 ICTの活用>

○文章構成が見える化し、考えとその根拠をたどって、要旨や意図に至るまでの論理を捉え、自分の考えを形成し易くする。考えは必ず表現させる。考えたことは、文章化したり、マイ黒板機能などを使いタブレットに示しグループや全体で伝え合う。以下は、マイ黒板の例である。



めるには

課題解決の方法に沿うようにする。下は、国語教室で研究アドバイザーがこのことを説明するために用意したパワーポイントの一部である。具体策を考えながらじっくり見たい。



< 1 1 課題と学習と評価の一貫性 >

○対話を通して深い学びに向かうためには、課題と学習と評価に一貫性のある授業を目指すことが重要である。

< 学習目標 ⇒ 課題 ⇒ 課題解決の方法を考える ⇒ 課題解決方法に従って自己学習 ⇒ 課題解決方法に従って話し合う ⇒ 課題解決方法に従って評価する ⇒ 評価結果に基づいて方法に立ち戻って調節する ⇒ 学習課題を解決する ⇒ 学習目標に到達する >

という学習の流れが重要である。

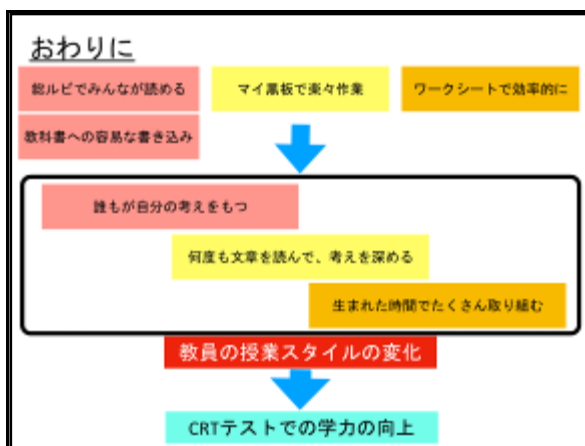
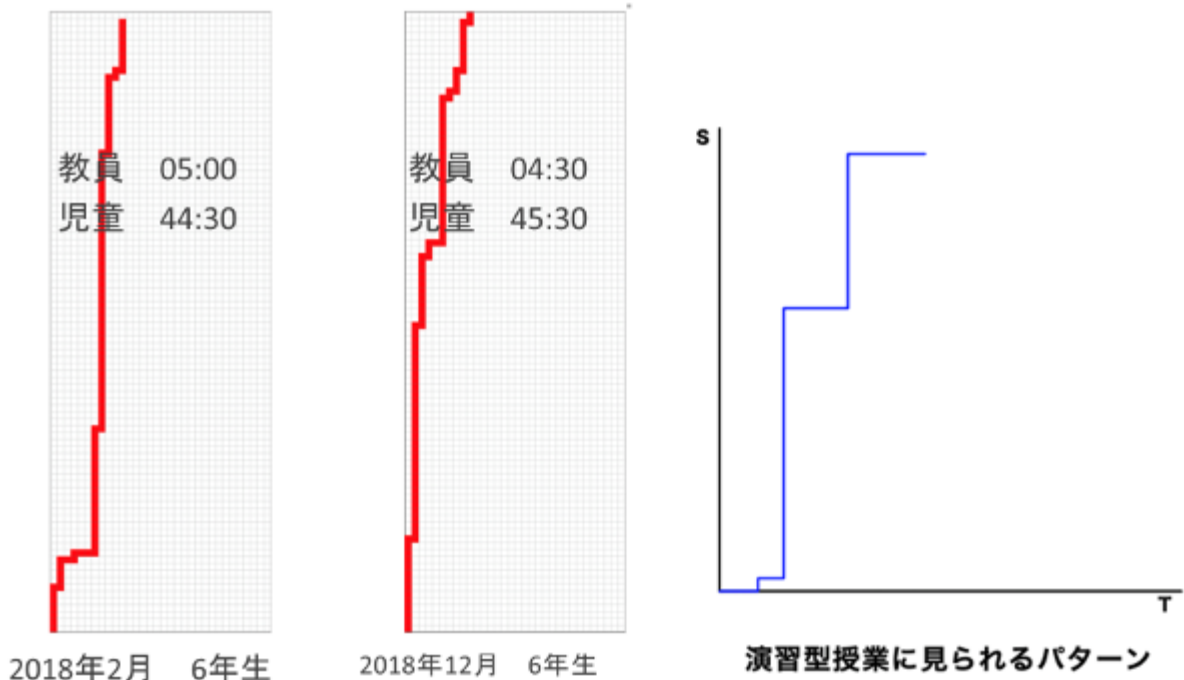
< 1 2 授業を真摯に振り返る >

○自分の授業を S-T 表に書き表すなどして、授業分析を行い、実践を振り返り考察する。S-T 表とは、30 秒の内 15 秒以上先生が話していたら T。(解説、説明、音読、模範演技、教師実験、板書、教材提示、発問、指名、評価) 児童が話していたら S。(思考・表現、発表、実験、実習、演技、作業)

○自分の授業を真摯に振り返るということは、自分の研究実践を客観的に見つめ直すということである。さらに、基本的な技能や思考力や学びに向かう力がどの程度定着したか、という認定的な評価に基づいて、自分の行った授業を評価していきたい。下は、研究の総括の仕方である。自分の研究をコンパクトにまとめていることの大事さ。さらに、その中の最終チェックを見逃してはならない。

教員の授業スタイルの変化

私のクラスのS-Tグラフ 説明文の段落構成の授業



< 13 評価の積み上げによる考察 >

○授業前の評価、授業中の評価、授業後の評価を行い、児童の変容を捉えていくことが大事である。いわゆる、診断的な評価、形成的な評価、総括的な評価である。これらの評価の積み上げが重要である。このような評価を通して、児童の実態を確実に捉えて、個人差に応じた学習を進めていく。と同時に、自分の授業の在り方を改善していく。このような具体的で詳細な考察が授業力を向上させる、と同時に、研究を深める。また次の課題につながる。自らの研究の過程にそって、具体的に考察し、考察や成果は、文章化するなどしてまとめる。他の人に説明して意見をもらう。そういう意味で、本会の国語教室は、非常に有意義な取り組みである。

以上